

る。又、戦闘的工場委員会が、長い間かゝつて基金を積立てられれば、ストライキ基金をあつて、積みたてて必要もない。

(ニ)ブルの軍隊にしても、平生から、常備軍、豫備軍が編成され、日常不斷の教育訓練がなされ、一切の武器が貯蔵され、参謀本部が平生から戦術戦術を練つてゐるので、いざ戦争といふ時に、充分活躍することが出来るのだ。我々も、戦争が始まりさうになつてから、あつて、準備したのでは、到底、大きな戦争は出来ない。

(三)だが、ストライキは、我々に充分の準備が出来てゐない時にもドン／＼起る。準備が出来るまで争議をやるのを待て、などと言つてはゐられないほど、今日、資本の攻勢は猛烈なだけから、十分の準備が出来てゐなくとも、断然ストライキを敢行しなければならぬ場合が随分ある。さうした場合にも、我々は、少くも次に列擧した範囲の準備をすることが是非必要だ。

#### B ストライキ委員会の結成

(イ)争議は、たとへばネストとまで行かなくとも、少くも

き始めて来たら、必ず、大衆的戦闘組織——スト委員会(闘争委員会)の結成に取りかゝる必要がある。

(ロ)大衆的基礎の上に立つたスト委員会が結成されてゐないと、よしんば、全従業員がストライキに参加しても、それを最後まで鞏固に結束させて置くことは困難である。又、更らに重要なことは、もしその工場にグラ幹組合の組織がある場合なんかには、大衆的スト委員会を樹立することなしには、争議圏が分裂するか、さもなければ、グラ幹組合の影響下に在る大衆が全然奮起しないやうなことになる。(左翼が働きかけた場合に、グラ幹組合が意識的にサボタージュをやるのは、國際的現象だ)だから、左翼が、全従業員を奮起させ、しかも『独自の指導』を全従業員に及ぼすためには、是非とも、全従業員大衆の基礎の上に立つた大衆的スト委員会を結成せしめる必要があるのだ。ドイトやイギリスのやうに、左翼と右翼とが、一つ組合に組織されてゐる場合でも、左翼は、右翼指導者と共同して争議の指導を行はうとはしない。左翼は、必ず大衆的スト委員会を樹立し、その委員会を通じて、『左翼独自の指導』を行つてゐるのである。況んや、左右兩翼の組合が對立してゐ

一工場の全従業員を奮起させるのでなければ、必ず惨敗する。今日のやうに資本家側がグッチリ準備して出て来るとときに、従業員の三パーセントや、四十パーセントが争議に入つたのでは、さるつきり戦争にならない。否、二三十パーセントの従業員が、あとに残つてゐたのでも、争議は非常な苦難に陥る。

(ロ)賃下げの場合なんかは、全従業員を起させることは比較的容易だが、ボツ／＼首切りが来た場合や、一工場に色々な組合の組織がある場合なんかには、全部を起させることはかなり困難である。だから我々は、先づ全従業員を起させるための努力をしなければならぬ。

(ハ)如何にして全従業員を奮起させるか?そのためには、分會ニュース、アジビラ、座談會、職場懇談會、演説會、等々あらゆる方法をもつて、アジビラを敢行しなければならぬ。既に客觀的状況が熟してゐる場合は、全職場が必ず奮起する。だが、さうした場合に、戦闘的分子だけの氣勢を見て、もう大丈夫だと思つて、急遽、工場引上げなんかを計畫すると、懲々にして、全従業員の過半があとに残るやうなことになる。だから我々は、各職場が動

る我闘の場合に於ては、左翼が、右翼幹部と共同して争議の指導を行はうとするやうなことは、絶対に間違ひである。

(ホ)我々の同志の中には、大衆的スト委員会を結成しやうとはせず、先づ分會だけで争議の對策をたて、全従業員を引きつて行かうとするやうな方針を取つてゐたものが相當にあるやうだが、さうしたやり方は、今後、断然廢止すべきである。

(ニ)スト委員会は、所屬組合の如何にか全然かわりなく、職場を基礎にして作られなければならない。そしてそれは、各職場の代表者によつて作られた中央集権的な最高委員会によつて統制されなければならないのである。かうしたスト委員会の結成は、だが、決して容易な業ではない。餘ほど熱心な執拗な且つ極めて巧妙な組織活動がなされなければ駄目だ。アジビラや分會ニュースでスト委員会を作れ!スト委員会を作れ!といふことをアジつたら、わけもなくスト委員会を作ることが出来るなど、考へたらとんでもない大間違だ。特に秘密な潛行的な活動が最も必要な時期に、いきなり、何月何日従業員大會を開いてスト